

オプトアウト

【研究の意義と目的】

胸椎びまん性特発性骨増殖症(diffuse idiopathic skeletal hyperostosis : DISH)は、前縦靭帯の骨化、癒合により脊柱の可撓性が低下し、可動性が残っている椎間の負担が増大すると言われてしています。

DISHにおいては、腰部脊柱管狭窄症の発生、重症化への関与が示唆されており、また腰椎に及ぶDISH患者はDISH無し患者に比べ、腰椎除圧or除圧+固定後の再手術率が有意に高いという報告もあります。しかし、DISH患者に対しての腰椎後方椎体間固定(transforaminal lumbar interbody fusion : TLIF)後の骨癒合率や隣接椎間障害の評価に関する報告はありません。

今回、大分整形外科病院で施行した腰椎1椎間TLIF患者の既存全脊椎X線、術後CTを使用し、骨癒合の有無、隣接椎間障害での再手術の有無を調査します。

また、DISHがそれら2つに影響を与えているかを明らかにします。

【研究の方法】

大分整形外科病院で施行された1椎間TLIF患者の半年以降での最終経過観察時のCTで骨癒合、隣接椎間障害による再手術を調査し、統計を用いてDISHがそれらに影響を与えていないか評価します。

本研究のために撮影した画像検査などはありません。

いかなる時も拒否の機会を保障します。

【問い合わせ先】

所属：福岡大学整形外科学教室

担当者名：萩原 秀祐

電話番号：092-801-1011

対応可能時間：9時から17時